

体験活動推進プロジェクト 全国的な普及啓発の実施

体験の風ナビゲーションの構築・運用

体験の風をおこそう運動推進委員会

【事業のポイント】

- web上で全国各地の体験活動に関する事業を検索できるシステムを構築した。
- 事業提供「する側」、「される側」双方向のアクセスが可能となった。
 - ①事業運営団体:Web上からのエントリーが可能
 - ②事業参加者:各団体の事業内容が容易に検索可能



体験の風ナビゲーション

1. 企画

(1) 事業実施の背景

体験の風をおこそう運動推進委員会(以下:推進委員会)では、青少年の体験活動に関する普及啓発活動を効果的に推進する為、毎年10月を体験の風をおこそう推進月間(以下:推進月間)と定め、子供の為の体験活動に関する様々な事業やフォーラムなどを全国の関係団体・施設を挙げて実施している。

同運動に賛同して実施いただける事業を募集し、「体験の風をおこそう」運動関連事業として、「体験の風をおこそう」運動ホームページで紹介してきたが、検索機能を有していないため、いつ、どこで、どのような体験活動のイベントが開催されているのか、見つけづらいという課題があった。

(2) ねらい

体験の風をおこそう推進月間に賛同して実施される事業を、青少年教育施設、青少年団体等から登録していただき、この情報を多くの方々に知っていただくため、ホームページ上で、いつ、どの地域で、どのようなイベントが実施されているのかを検索できるシステムを構築し運用することで、体験の機会と場の拡充につなげることが本事業の目的である。

2. 実施概要

(1) 実施主体

体験の風をおこそう運動推進委員会

委員長 松本零士

委員:浅野万里子(ガールスカウト日本連盟会長)、石川正夫(全国公民館連合会会長)、井出久(社会通信教育協会会長)、大野幸男(ハーモニセンター理事長)、岡島成行(自然体験活動推進協議会会長)、奥島孝康(ボーイスカウト日本連盟理事長)、小野清子(全国ラジオ体操連盟会長)、尾上浩一(日本PTA全国協議会会長)、小西亘(日本レクリエーション協会理事長)、齊藤斗志二(全国スポーツ推進委員連合会長)、坂本祐之輔(日本体育協会日本スポーツ少年団本部長)、(会計責任者)田中壮一郎(国立青少年教育振興機構理事長)、西館好子(日本子守唄協会 理事長)、藤野興一(全国児童養護施設協議会会長)、星野敏男(日本キャンプ協会会長)、丸山康昭(全国子ども会連合会会長)、水野宰(日本ユースホステル協会理事長)

体験の風ナビゲーション システム構築会議

委員長:小坂橋昇(国立青少年教育振興機構理事 兼 国立磐梯青少年交流の家所長)

委員:多田賢(国立大隅青少年自然の家所長)、井出久(一般財団法人社会通信教育協会会長)、

小林孝之助(公益財団法人ボーイスカウト日本連盟)

(2) 開催実績

月 日	内 容
6月20日	体験の風ナビゲーションシステム構築会議(第1回) ・システムの構築について検討 ※多田委員欠席

7月10日	体験の風をおこそう運動推進委員会① ※本事業委託外で実施 ・「体験の風をおこそうナビゲーション」の方向性について検討
11月27日～28日	体験の風ナビゲーションシステム構築会議(第2回) ・システムに関する評価と、今後の課題に関する検討 ※多田委員への聴取
12月19日	体験の風をおこそう運動推進委員会② ※本事業委託外で実施 ・「体験の風をおこそうナビゲーション」の成果と課題について検討
1月26日	体験の風ナビゲーションシステム構築会議(第3回) ・次年度システムの構築について検討 ※多田委員への聴取

(3) 推進月間の設定

上記報告のとおり、推進委員会では10月を推進月間と定め、子供たちやその家族に体験活動の機会や場を提供するとともに、保護者、指導者等に対して体験の重要性に関する普及啓発を行った。

また、推進月間の認知度を高めるため、統一イベントデー(10月25日。土曜日)を定めたほか、イベント会場には同じデザインの「のぼり旗」を掲げることで、全国規模で体験活動を推進する運動としての一体感をもたせるように努めた。

(4) 事例の収集と発信

本事業で構築した体験の風ナビゲーションは、web上から参加希望団体が事業内容(事例)を発信することが可能であり、事業を探している方々に対して、常に事業の情報を発信できることとなっている。

(5) 意見交換の場の設定

体験の風をおこそうナビゲーションシステム構築会議を3回開催し、「システムの構築」「システムの評価と、次年度の課題について検討」「次年度のシステムについて検討」を各回のテーマとして、有識者との意見交換の場を設けた。

(6) 新たな青少年体験活動の推進方策の検討と試行

体験の風をおこそうナビゲーションシステム構築会議での協議をふまえ、体験の風をおこそうナビゲーションを構築し、今年度運用を開始した。

3. 成果と課題

(1) 事業成果

本ナビゲーションの運用を始めたことにより、以下の成果が得られた。

- ◆体験の風をおこそう推進月間事業の参加者数等：500団体、889事業、201,225名
(前年度比：58団体減、225事業減、534名増)
- ◆体験の風をおこそうナビゲーションのアクセス等(平成26年8月1日～10月31日)
- ①アクセス数：4,747件(述ベ)
- ②検索性数：8,327件(述ベ)

(2) 事業運営上の課題

次年度以降、本ナビゲーションを運用する上での課題として、以下の点が挙げられる。

- ◆本ナビゲーションへのアクセス数、登録数を増加する為の広報活動の強化
(「イベントを探している子供や家庭」と「イベント実施団体」双方に対する周知)

(3) 事業成果の普及啓発の課題

今年度は運用1年目であり、本ナビゲーション構築に伴う事業成果が見られるまでには至っていない。次年度以降も引き続き本ナビゲーションの充実を図ることで、「エントリー団体」「アクセス数」の増加を目指し、我が国における体験活動に関する検索システムのモデルとしていくことが当面の課題である。

4. 団体プロフィール

体験の風をおこそう運動推進委員会

平成22年5月発足。平成26年3月現在17団体が加盟。

事務局：国立青少年教育振興機構 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

ホームページ<http://www.niye.go.jp/services/taikennokaze/> Eメールtaikennokaze@niye.go.jp